

令月風和

校長 石川 義信

旧暦（太陰太陽暦）での2月の名称は一般的に「如月」です。現在では、新暦（現在の暦）の2月の別名としても使われています。ただし、旧暦の2月は、新暦に当てはめると1月ほどずれて、新暦の2月下旬から4月上旬頃になります。ちょうど、これからの時期にあたります。春ですね。

春といえば…出会いと別れの季節ですね。学校では、卒業、転校、退職、異動、進学、進級、クラス替え…等。

春は、希望に満ちあふれ、心がうきうきする季節であるとともに、慣れ親しんだ場所から離れなくてはならないことへのさびしさも感じる季節です。

ところで、2月の名称としては「令月」もあります。「令月」には「めでたい月、何をするにもよいとされる月」という意味もあります。ご承知のように、元号「令和」の元となった歌にあります。

漢文 初春令月 気淑風和 梅披鏡前之粉 蘭薫珮後之香

書き下し文 初春(しよしゅん)の令月(れいげつ)にして 気淑(きよ)く風和(やわ)らぎ 梅は鏡前(きょうぜん)の粉(こ)を披(ひら)き 蘭(らん)は珮後(はいご)の香(かう)を薫(かお)らす

現代語訳(中西 進『万葉集』による)

時あたかも新春の好き月、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている。

ここから採られた言葉が「令月風和」です。「(旧暦)2月は、風も和らぐ春らしい季節、何をするにもよい月」という意味を読み取れるかもしれません。

話を戻します。私は、長らく、春にはさびしい気持ちを感じるが多かったです。置かれた場所での人間関係にも慣れ、勉強や仕事にも慣れてきたのに、リセットして1から始めなければならぬので、落ち着かない気持ちになるが多かったです。

しかし、人間は、新しい環境の中で、新しい勉強や仕事に向かうことで、成長するのでしょうね。いつまでも同じ場所にとどまっているわけには行きません。

「令月」には、生徒も職員も、一人一人が新たな場所で、また元気に勉強したり仕事をしたりできるよう、この1年の自分の成長をしみじみと感じたり、お世話になった方々への感謝の気持ちを深くもったりしながら、次のステージに向けて準備をしていきたいと思います。

3年生に贈るメッセージ

2年生が教室(北校舎)の窓に、3年生へのメッセージを掲げました。3年生の教室(南校舎)の廊下からよく見えます。

2月28日(水)、29日(木)の県立高校入試がいよいよ目前に迫ってきました。3年生一人一人の健闘を、学校全体で祈っています。



2年生が救急救命を学びました

2月2日(金)に筑西消防署の消防士さんを講師にお招きし、2年生が救急救命講習会を実施しました。中学生はいざという時に自助とともに共助が求められます。生徒たちは自動体外式除細動器(AED)の使い方や、心臓マッサージの行い方を熱心に学んでいました。



1年生授業参観



2月22日(木)の授業参観で、1年生はタブレットPCを使ったクラス対抗の学習クイズ大会を実施しました。続いて、保護者の方を対象とした家庭教育学級が開かれました。講師として社会教育指導員の古谷明弘先生をお招きして、人権や子育てに関する講話いただき、研修を深めました。

2学年立志のつどい



同じく22日に「成長・希望・感謝～輝く未来へはばたこう～」をテーマに2学年立志のつどいを実施しました。本校出身のフィットネスインストラクター齋藤あゆみ先生による記念講演、生徒一人一人による決意表明、「夢を追いかけて」の合唱、お家の方との手紙の交換などを通して、生き方を見つめる貴重な機会となりました。